

工業部会通信

編集：かながわ経済新聞
 代表：千葉龍太
 〒252-0239
 相模原市中央区中央3-12-3
 TEL：042(851)3021
 プリントしてご自由にお読み下さい。

かながわ経済新聞
 KANAKAI

工業版交流会を開催 経営者、若手社員が交流



会場には経営者や若手社員など50人以上が集まった

相模原の工業人たちに垣根を越えた交流を持ってもらおうと、相模原商工会議所・工業部会（甲斐美利部会長「向洋技研社長」）は4日、杜のホールはしもと・多目的室で「会員交流大会（工業版）」を開いた。部会単独で交流会を開催するのは4回目。企画はKIZUNAプロジェクト（那須隆仁委員長）。工業関連の異業種企業から計52人が参加した。

今回の交流会のテーマは「経営者・若手社員の社外交流」。

製造業系企業の経営者と事業承継予定者のほか、入社5年程度までの若手社員を参加対象とした。津久井、城山、相模湖、藤野商工会も協力した。

交流会に先立ち、ミニセミナーも行われた。玉川大学工学部機械情報システム学科の岡田浩之教授が「ロボカップ世界大会への挑戦」と題し、講演した。

具体的には、「ロボカップ」が「活用された同大学のロボット研究の取り組みや産学連携の可能性について触れた。岡田教授は「興味ある企業は以下の通り」。

市の「トライアル発注制度」

15社15製品を認定

相模原市は、市内企業が開発した優れた新製品を選定し、販路開拓を手助けする「トライアル発注認定制度」の認定企業・製品を発表した。6回目となる今年度は15社の独自の15製品を認定した。工業部会の会員企業も認定されている。

相模原市では今後、展覧会出展やカタログ作成など、販路開拓を支援していく。

加山俊夫市長は「中小企業が新製品や新技術開発に取り組むことは、市内経済の活性化につながる。製品を全国に広げるため、市としても積極的に支援していきたい」と話した。

なお、認定製品の概要、

- 企業は以下の通り。
- 雪かき用フックリフト専用バケット（旭フックリフト） 獣害対策用溶接金網（相模メッシュ工業） 軽規格太陽光発電トラッカー（システムエレクトロニクス）
- 段ボール家具（東鈴紙器） 乱数表示LED（めも）とるん（ブラスタフタイメージ）
- 窓付きカッタークロス（ファンシード） 集中豪雨対応可能タンク（シブスレインワールド）
- 金型教材アニメ（クライムNC） 首の後ろにかけるマスク補助具



第1部のミニセミナー



玉川大学ロボ「eR@ser」



共通の話題で盛り上がる参加者たち

初参加した企業の社長は「ちよと工場での作業の一部自動化を考えたが、交流会で頼めそうな会社を見つけた。商売の幅が広がった」と感じた。

シートには得意とする技術のPRや市内協力企業の募集、技術相談、海外事業情報といったビジネスに関する話題のほか、地域情報や趣味・娯楽などの項目も設けられた。

「被災地に遊休機械を」 支援事業が休止 今後は販路回復に

日本商工会議所・東北6県商工会議所連合会で実施していた「遊休機械マツチングプロジェクト事業」が今年度で休止される。

同プロジェクトは、東日本大震災の被災地に立地する工場に対して、市内企業で余っている「遊休機械」を無償で提供する取り組み。

事務局となる仙台商工会議所が被災工場の一ツと照らし合わせマツチングした。

相模原市内では工業部会・KIZUNAプロジェクトが周知をよびかけ、会員企業4社から10件の提供があった。

今後は今後、販路回復・開拓支援に切り替えられる予定だ。

なお、同プロジェクトに協力した企業は、旭フックリフト 中村電機 日本化工機材 林電機社。



職人がいい、施工がいい、住む人がいい。
 そこに良いまちが生まれる。

まちづくりの職人 久野新一

創業96年
 有限会社
 トータルハウジング久野

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名 2-11-26 TEL 042-762-0096 FAX 042-760-0078
 フリーダイヤル 0120-61-0096 URL <http://www.t-h-kuno.co.jp/>